

聖使徒行実の読み（ 9 : 32 ~ 42 ）

謹みて聴くべし

か 彼の日、ペトル、あまね しょほう ゆ 徧く諸方を行きて、リッダに居る聖徒にも せいと いた 詣りしことあり。かしこ おい 彼處に於て、彼は、いちにん 一人、名はエネイ、ちゆうふう うれ 癱瘋を患ひて、八年間、どこ ふ 床に臥せる者にあ 遇へり。ペトル、彼に い 謂へり、

『エネイよ、 イイスス・ハリストス、 いや 爾を愈す。 起きて、爾の ところ おさ 床を治めよ』。

彼、ただち 直に 起きたり。リッダ、及びサロンに居る者は、皆、彼を見て、主に 歸せり。

イオツピヤに、ひとり じよと 一の女徒、名はタウィファ、(譯すれば『鹿』)と云ふ者あり。彼は 廣く 善事を行ひ、おこな ほどし な 施濟を爲せり。適、其日に、病みて死せり。彼を洗ひて せんじ さら 楼に置きたり。リッダは、イオツピヤに 近きに 因り、門徒は、『ペトル、彼處に在り』と聞きて、二人を彼に 遺して、其 遅 はずして彼等に來らんことを求めたり。ペトル、起ちて、之と 偕に 往けり。至るに及びて、彼を引きて、 楼に 登らせ、寡婦、皆、哭きて、彼の 側に 立ち、『鹿』の彼等と 偕に在りし時に作りたる上衣、下衣を示せり。ペトル、彼等を 悉く外に出し、膝を屈めて 禱れり。而して、 屍に向ひて曰へり、

『タウィファ、起きよ』。

彼、其目を啓き、ペトルを見て、坐せり。ペトル、之に手を授けて、之を起し、聖徒、及び寡婦を召して、之を 活ける者として其前に立てたり。此の事、全イオツピヤの知る所と爲りて、多くの者、主を信ぜり。